

集合知で、社会に風を通す

1968年に創刊した広報誌くすのきは、151号を迎えました。

今号は少しの刷新を図り、
協会内にある実績だけではない実践の声を拾い、
より一層風を通していくことに挑戦しました。

協会内には、建築士事務所やそこに関わる人々の
すでに在る資源を汲み取って関係性を整理し、
長い時間軸で社会に残るものをデザインする視点があります。

個ではなく、協会としての、
複数の知識や洞察、経験が重なり合い、
社会に新たな風が吹いていく一歩へととなりますように。

Cover story 表紙の絵

表紙の絵は、風を可視化してみたものである。今号の制作にあたり、「集合知で、社会に風を通す」という言葉にたどり着いた。数々の建築士事務所の視点が滞っていたものを流していくように社会の解像度をあげてくれるものになればと思う。

今回、兵庫県建築士事務所協会の事務所がある古河ビルの流体解析を行った。花の蕾のような、燃える炎のような形。すぐそばにあるのに、見えていないものはたくさんある。

流体解析：株式会社文化工学研究所 北川浩明

